

# I

を る  
— を したア ク イ グの —  
に けて で された『 で い  
びの 「ア ク イ グ」の からの について 』では「 い び」「  
な び」「 な び」の つの から を し に り むことが  
された。

においては まで「 を む の 」を か の  
として してきた。その した の の や の について 々な  
を し を することにより な に く を することができた。し  
かしながら を む を した の「 」における の で  
での した や との そして を がどのように な  
につなげるのかなど が かった。

においては の と や を まえ「 な び」「 な び」「 い  
び」を のように え その のための を うこととした。ここでは に して  
を する。

は まで み ねてきた を む を「 な び」の と え それを  
もとに「 な び」につなげていくことである。 な びは なる えの に わるだけ  
でなく えを いに し していくことが「らの えを げ める」ことと える。その  
「 な び」「 な び」によって を する を「 い び」として  
できると えた。

は について することである。 では に わる 々な から  
を え を めていく を し を う。 については  
が している「 き 」による のカ キ  
に り み の で オ を に り れることを している。  
では「 グ 」を った グ グでのコ  
を している。 では が したアイ アをもとに ク <sup>イ</sup>  
を いた を い したものを し を する。 の をくみ <sup>イ</sup>ながら  
を に り み かつ な びをして い びにつながる を す  
る。

では「 ( )」を に グ な から を  
え の な を に させ わることなく で られることの を さ  
せることで を き を たに へとつなげる を する を みる。

## II 実践発表

をした

の すべき  
の  
き による のカ キ  
オ を かした

## III 全体協議

では の について「なぜ と を けたのか」という を けた。  
と を けた は それぞれの を する で ひとりに を たせ  
と する を り れたかったからである。 ア ケ から の について く  
の から な が られたことで コ を り げた の な が  
しい の けとなる となったことと じる。

では の に する「 」が にあり それをいかに に じとつても  
らいたいのか を して を えたいのかが わる であつたとのご を いただい  
た。しかし は だけにこだわるものではなく また だけにこだわるものでもな  
いので を 々な から えさせることが だとのご があつた。 を り に  
した は を える として に を げることのできるものであると え  
るが さらなる の を いたい。